

徳島大学創立70周年記念事業 Home Coming Day

# 学術講演会

徳島大学創立70周年記念事業Home Coming Day学術講演会を開催いたします。  
多数のご参加をお待ちしています。【入場無料】

令和元年 11月2日(土) 15:30~17:00

徳島大学藤井節郎記念ホール (蔵本キャンパス)



講師

長谷川 好規 先生

独立行政法人国立病院機構 理事  
名古屋医療センター院長  
(前名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学教授)

座長

西岡 安彦 先生

徳島大学大学院医歯薬学研究部  
呼吸器・膠原病内科学分野教授

長谷川好規先生は、徳島大学医学部を卒業され、名古屋大学呼吸器内科学の教授として勤務されたのち、本年5月より独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターの院長としてご活躍されております。日本呼吸器学会の理事長も務められており、名実ともに日本の呼吸器病学、呼吸器診療のリーダーです。本年4月には会長として第116回日本内科学会総会・講演会も開催されており、先生が名古屋大学で進めてこられた幅広い呼吸器研究を基に、臨床医学の魅力をご講演いただけるものと期待しております。

演題 「徳島大学での学びと現在の私」

～ 呼吸器病研究へのいざない ～

肺は、外界から吸入された空気と全身からの血液の接点にあり、酸素と二酸化炭素のガス交換の重要な臓器であるとともに、空気により運ばれてくる微生物をはじめとする有機物や無機物などの外来抗原に絶えずさらされています。同時に、血流により運ばれる内的抗原に暴露されながら、精緻なメカニズムにより恒常性を保ち、健全な肺と呼吸を司っています。しかし、このような外的・内的抗原に対する生体防御機構のバランスが崩れることにより、肺を応答の場としてさまざまな疾患が発症します。この応答の背景には、個体が内在する遺伝的要因と外的に暴露される環境的要因があり、その相互関係により、様々な疾患が成立することになります。私は昭和55年(1980年)に徳島大学医学部を卒業し、先進的な臨床研修制度を採用していた名古屋大学関連病院での初期研修を開始しましたが、学生時代に、この免疫応答の場としての肺に興味を持ったことが、のちに呼吸器内科を専攻することにつながりました。特に、鮮明に記憶している臨床講義があり、それは第一内科学講座三好和夫教授の講義で「Human adjuvant disease」の疾患概念の提示でした。生体への異物の移植により全身症状の1つとして肺障害を発病した症例で、学生として新鮮な驚きをもって講義を受けたと記憶しています。本講演会では、1. 移植医療に関連する閉塞性細気管支炎研究、2. 肺癌治療とゲノム医療、3. 肺炎の疫学研究と今後の肺炎研究のあり方、4. 特発性間質性肺炎のAI研究について、名古屋大学での呼吸器病研究と今後の将来展望について報告いたします。

お問い合わせ

青藍会事務局

TEL 088-633-7109

(平日 10:00 ~ 16:00)

✉ seiran@tokushima-u.ac.jp

共催 / 青 藍 会  
睦 眉 会  
医 学 科